

二〇一三年、後半を迎えて！

疲れを癒して実り多いものにしましょう

夏の暑さが厳しかったですね。ここに来て、朝夕が過ごしやすくなり、落ち着いて暮らすことができるようになりました。秋の彼岸を向かえ、地域では、いろいろなイベントが開催されます。みな様も都合をつけて、参加してみたいでしょうか。人のとの出会い、ふれあいをして、新たな発見をして、楽しみを見つけてください。

今年も哀しい事件、事故が起こり、人を信ずるといふ行為ができない世の中になっていることが残念です。どうしてそのようなことになるのでしょうか。人に迷惑をかけるという戒めが薄れてきている気がします。私は、幼い頃、母親からよく戒められました。いわゆるしつけという行為です。今は誰も見ていなければ、ちよつとだけなら良いとかという風ですが、悪い行いになっていくでしょう。

法句経の中に「真理が正しく説かれたときに真理に従う人々は、渡りがたい死の領域を超えて彼岸に至るであろう。」と述べられている。しつけには真理に気づく行為ではないかと思う。人間、快樂のまま生きれば、滅んでいくでしょう。今こそ、悪を戒めて正しい道が何であるかに気づき人としての喜びを感じて、日々暮らしていただきたい。



後悔

人間は、明日の命はわからないというが、死ぬまでは確実に生きている。この生きている間に、後悔のない人生を歩みたい者であります。後悔を大きく分けると、「やった後悔」「やらなかった後悔」の二つになる。

「やった後悔」は、一生懸命努力してやったのであれば、失敗であつても、大きく後悔しない。ところが、「やらなかった後悔」は、やらなかったことによるマイナスと、やっていけば、結果がまったく違っていたであろうという思いが加わり、「やって後悔」より後悔する度合いが大きい。

これからの予定

門中共同の大蔵経会

十月十九日(土)～二十日(日)

会場 横山の大清寺

※高島持ち回りの法要です。稚児さん、詠歌隊、子どもの踊りがありますので、是非御縁を結んでください。

秋のお十夜会

とき 十一月十日(日)

午後二時 念仏講のお参り

午後七時 袋米の戒名回向

ところ 玉泉寺

※詳しくは、チラシを配布しますのでご覧ください。

供養の意義

きょうきゅうしよう

「供養」というのは、「供給資養」の略ですが、サンスクリット語の「プージャー」または「プージャー」の訳として当てられました。仏、法、僧の三宝や、亡くなった方の霊に対して、身と口と意(こころ)の3つの方法によって、供物を捧げることを意味します。さらに広い意味では、お寺で行われる様々な法要も供養の儀式でありま

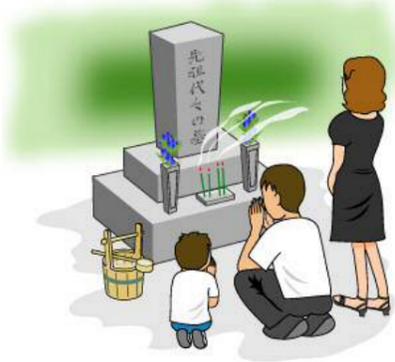
すし、仏壇やお墓にお参りすることも供養の一種と考えられます。

その中で一般に仏教徒の方にとって、最も身近な供養といえは、「法事」でありましょう。「法事」とは、本来仏法上の行事を指し、多岐にわたりますが、現在では、「追善供養」(先祖供養)の同義語として多く使われています。

「追善」とは、「善きことをあとから追って営む」という意味です。「追薦」「追福」「追修」などの類義語があります。仏前にお花やお香、御灯明や珍しい御供えし、ともに読経を営む功德によって、亡き方々に安楽を得ていただくのです。

このときに大切なことは、亡くなった方に対して生前と同じように真心をもって向かうことです。亡き方は、残された家族の幸せを願い、健康で安らかな日暮らしをしてほしいと、いつまでも見守って下さるはず。さらに大事なことは、様々なお供えものに加えて「安心」という眼に見えないお供えをすることでありま

す。亡き方に安心してもらえるような正しい生活をし、日々感謝の合掌を捧げることが最良の供養です。



諸悪莫作 衆善奉行

(意識)

ありとある悪を作さず、ありとある善きことを行い、おのれの心を清めんこそ、諸仏のものなり。

(説明)

仏教の善悪の教えとは、「正しいこと」とは自他を活かし、共に喜ぶことであり、「悪いこと」とは自他を殺し、悲しませることです。

法句経に「悪の報いは自分にはこない、小さい悪事を軽くみてはいけません。水のしたたり落ちる一滴一滴の水が、やがて水瓶をいっぱいにするように、愚かなる人は、ついに悪を満たすなり」とあるように、善きことを思い、善きことをなせば、幸福は必ず実現する。反対に、一時は賢く要領のいい人間がはびこると、因果の法則はくまらずことはできないという教えは人生の鉄則といってもいいでしょう。

「びんずる会」の活動

写経をして、心の修養をしますので、皆様のご参加をお待ちします。参加してみようと思われ方は、電話下さい。

※前期のお寺の定式割と積立金について出費御多端の恐縮ですが、ご協力くださいます様伏してお祈りします

発行者 高島市安曇川町中三四五九

天台真盛宗玉泉寺 木村 哲基

電話 〇九〇―三七〇八―七二〇六

Eメール svka37375@leto.eonet.ne.jp